

中学校 第2学年  
A表現(1)イ(ア), (2), B鑑賞(1)ア(1)イ(イ)

**題材名**  
**季節を感じる  
～和菓子のデザイン～**



実践校  
大垣市立北中学校  
授業者 高橋 古都美  
実践時期 2学期  
全11時間

**つながりを生かす**

- 日本の四季に対して、関心はあるものの、四季の美しさを実感したり表現したりする機会が少ないため、身近な和菓子の作品を制作することで「もの」とのつながりを大切にしたい。
- 題材の導入時に、地元の和菓子店の職人を招き、和菓子についての講話や、実際に和菓子を作るところを見学することで、「ひと」とのつながりを大切にしたい。職人の思いや和菓子の魅力を実際に感じることで、作品に対する興味や意欲が高まるようにした。完成した作品の一部を、和菓子店の店頭飾ってもらうことで、地域とのつながりももてるようにした。
- 「ちから」のつながりは、2年生の1学期で行うピクトグラムの制作時に、必要な情報を選択して、相手に伝わりやすいデザインを考えた。和菓子の制作においても、相手に伝えたい四季の美しさを分かりやすく選択していく力が必要となる。

**題材の流れ**

**第1時 見通しをもつ**

季節の和菓子(地域の和菓子店のもの)を鑑賞することを通して、情景から着想する和菓子について理解する。

想像していたよりも和菓子は繊細なのだ。季節の表現の仕方がたくさんあって、自分が伝えたい季節の美しさを表現するには、どんな方法がいいのかな。

**第2時 見通しをもつ**

職人が和菓子を作る様子を見たり、話を聞いたりする活動を通して、見た人がおいしそうとすることができる和菓子はどんなものなのかを考える。

和菓子なので、ただ美しさを表現するだけでなく、おいしそうに見えるようにしないといけない。そのためには、原色に近いような色や、複雑すぎる形は避けて、モチーフやデザインを考えていこう。



**ポイント1 美しさの表現が固定化されてしまわないように、同じ季節のモチーフでも様々な形状や色で表現し、和菓子を田舎に**

**第3時 主題を設定する**

伝えたい日本の季節などから、表現したい情景やモチーフを考える。

自然の風景の美しさを表現したいので、水や緑がきれいに見える夏をテーマにしよう。美しい川や湖を、涼しげに見えるようにして、生き生きとした緑も表現できるといいな。そして、その美しさが続いていってほしいという願いを込めて制作できるようにデザインを考えよう。

**第4～6時 アイデアスケッチ・粘土を使った試作**

アイデアスケッチや、実際に粘土を使用した試作を行いながら、よりよい作品になるように色や形を考える。

**ポイント2 比較資料は下3つを用意した。**



①モチーフ全体 ②モチーフの一部 ③モチーフを含む空間

**第7～10時 制作をする**

アイデアスケッチや試作品を基に、材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して表現する。

**ポイント3**

用具は、めん棒、ヘラ、リッピングはさみを用了。



三角棒 → めん棒、ヘラ 細工はさみ → リッピングはさみ

**第11時 仲間の作品を鑑賞する**

仲間の作品を鑑賞する活動を通して、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考える。

**作品例**

**菓銘【散り桜】**

桜は木に咲いているときだけではなく、散った後に地面に落ちたときや、花びらが川に流れているときもきれいだということを伝えたい。

川の水を表現するために、線をつけたり、青くなりすぎたりしないように上から粘土で包んだりして表現した。



**授業を終えて**

本物の和菓子を鑑賞したり、実際に職人さんが和菓子を作っているところを見たりして、和菓子の美しさや繊細さを知ることができた。また、和菓子で季節の美しさを表現するために、自分が思う美しさを表現するためには、どんな道具を使って、どんな色や形にするかというのを考えることができた。

和菓子のデザインはただ美しければいいわけではなく、おいしそうに見えるかどうかもちょうど大切にして制作することができた。